

戦うシスターが

触手モンスターに

敗北

する話







戦うシスターが触手モンスターに

敗北する話

シスターさん

過去に両親を魔物に奪われ、孤児院で育った経歴を持つ。

自身を救ってくれた孤児院を守るため、大人になった彼女は厳しい鍛錬の末『ガーディアン・シスター』の称号を獲得するに至る。

シスターとして生涯純潔を守ると誓った彼女だが、魔物との闘いによって危険に晒される機会も多いためか、その反動で性的欲求も膨れ上がっている事が悩み。

孤児院の子達が寝静まった夜、自室でこっそり自慰行為に勤しんでいるとかいないとか…

モンスターの
群れだっ！



みんな
早く地下室へっ！



おねえちゃんは!?



んっ…



人々の安寧を脅かす
邪な魔物たちよ…



私なら大丈夫!

こんな魔物
すぐにやっつけて
しまいますから

いつも通り…ね



うん!
がんばって!



あなた方は
このガーディアン・シスターが
浄化して差し上げます!



せいっ!

ギヤアッ



ケケッ



種族の違う魔物が
徒党を組んでいる…?

それに



ヒビヒ



必ず背後から
新手が飛びかかって来る…!

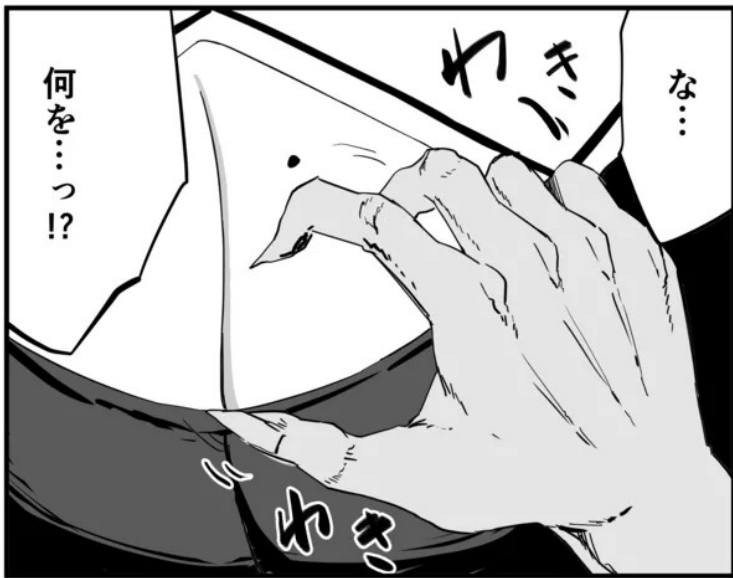


はあっ



同時にっ……!

くっ……!



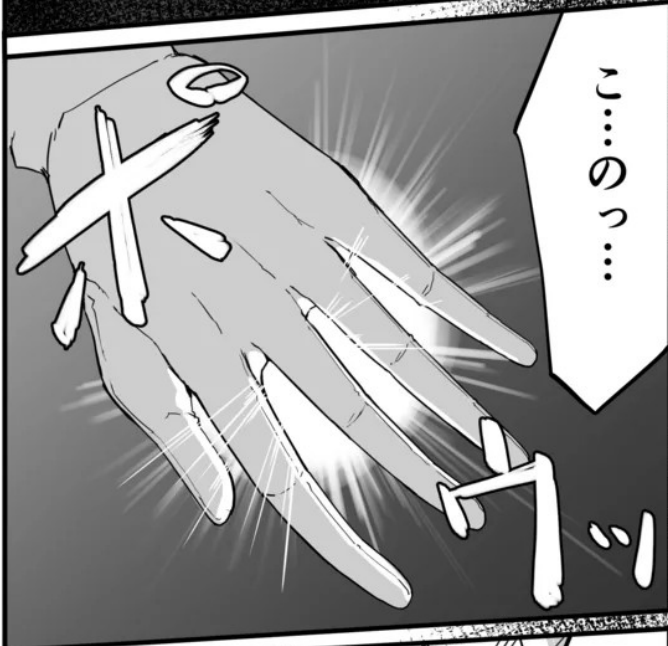


...っ!

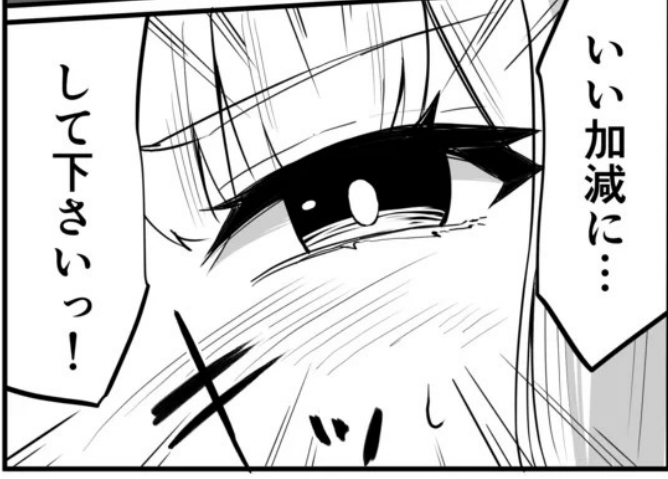


こんな辱めをっ...!!

くっ...



...の...の...



いい加減に...

アハハハハ...

『浄化の光』



思わず白魔法を
使ってしまった…

はあ…

はあ…っ

体力の消耗が激しいから一日に
数回しか使えないのに…



まだ数が多い…!

目の前で仲間がやられて
いても全く逃げる
気配がない：

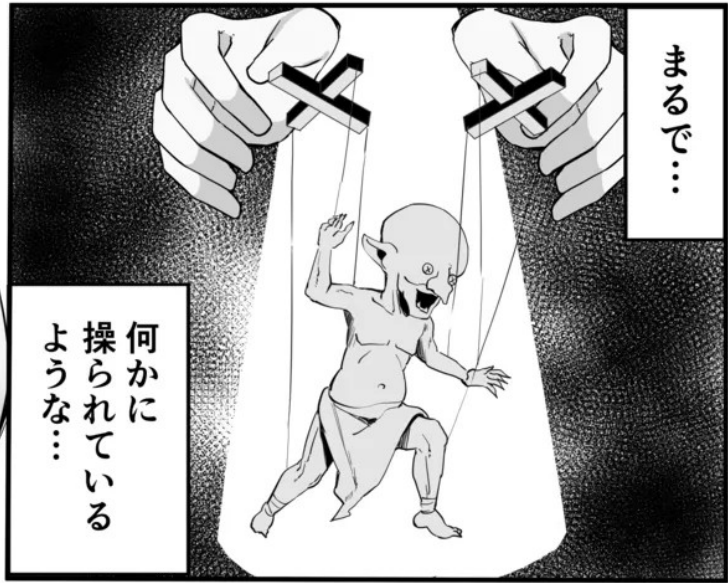


やはり何かがおかしい：

このまま消耗戦に
持ち込まれたら

厳しいかも
しれない：

まるで…



何かに
操られている
ような…

…

おとうさん

おかあさん…



今日からみんな
家族ですよ



嫌だよお…

置いて
いかないで…



強くなりたい…!

せめて皆の命が脅かされる
ことが無いように…



私と同じ境遇の子が
ここにはたくさん居る…



あなたは優しくして
強い子



魔物に両親を奪われた
憎しみより

皆を守るための
強さを願うのね

きつと…

立派な
ガーディアンだ

なれるわ

そう

私は
ガーディアン

この身が
どうなるうとも

この場所を…子供たちを
守るのが私の役目

この程度で
屈する訳には
行きません…!!

さあ

いくらでも
かかって来なさい!

ヤッ

ヤッ



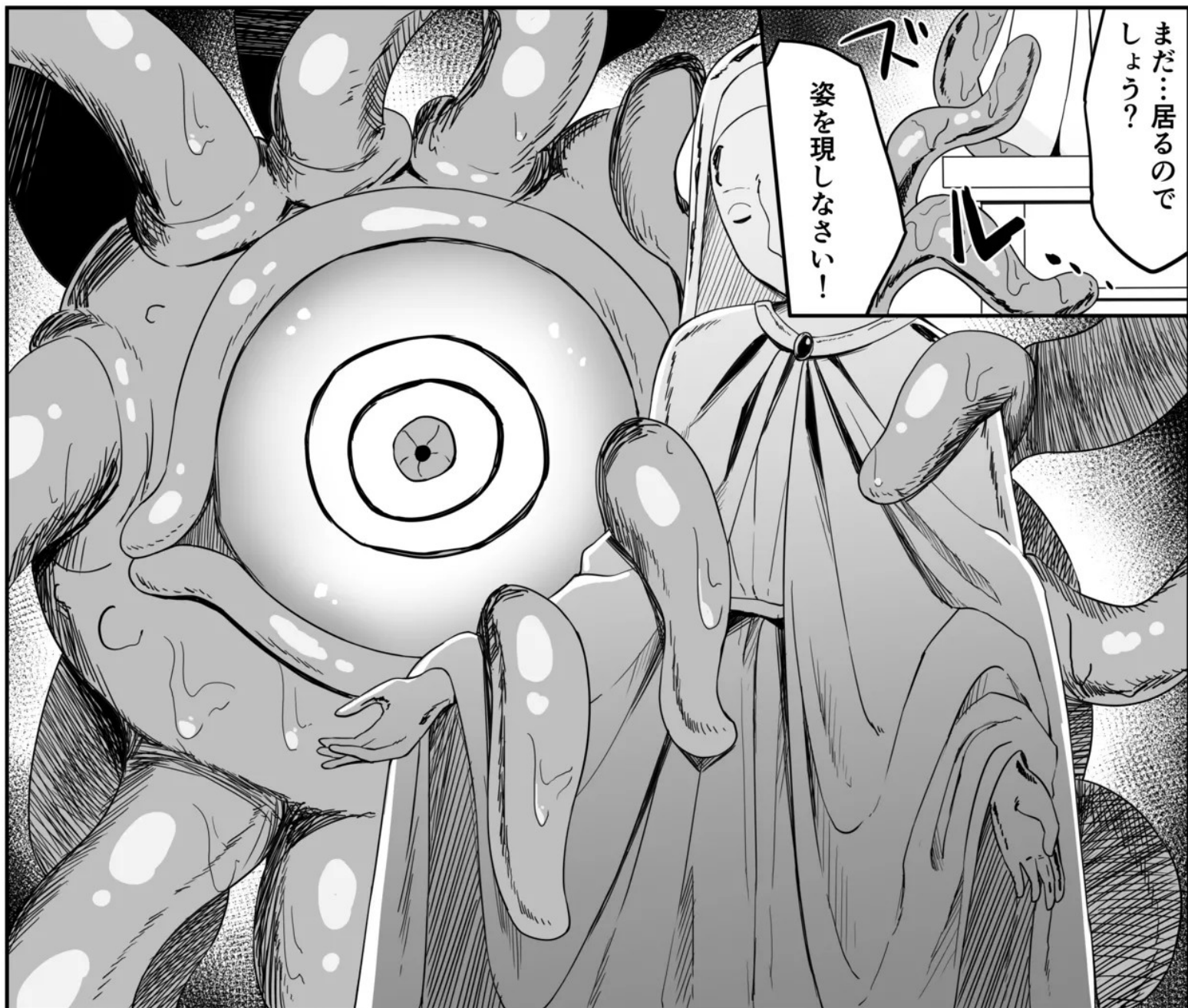
これで：おおかた
片付いた様ですが：

はっ



はあっ

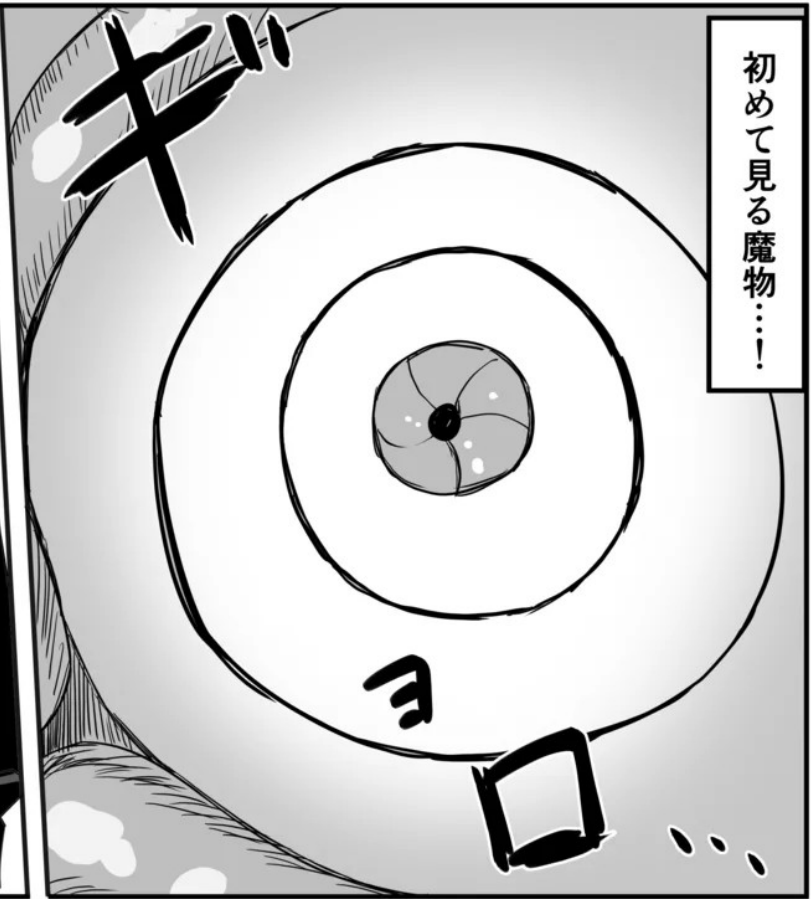
はあっ



まだ：居るので
しょう？

姿を現しなさい！

初めて見る魔物…！



なんておぞましい
姿…！

彼等を操り
けしかけたのは
貴方なのでしょう？



相手を消耗させ
自分が姿を現すのは
最後…



ずいぶん慎重な
ようですね

結局 あの後も何度か組み付かれて…
白魔法を使ってしまった

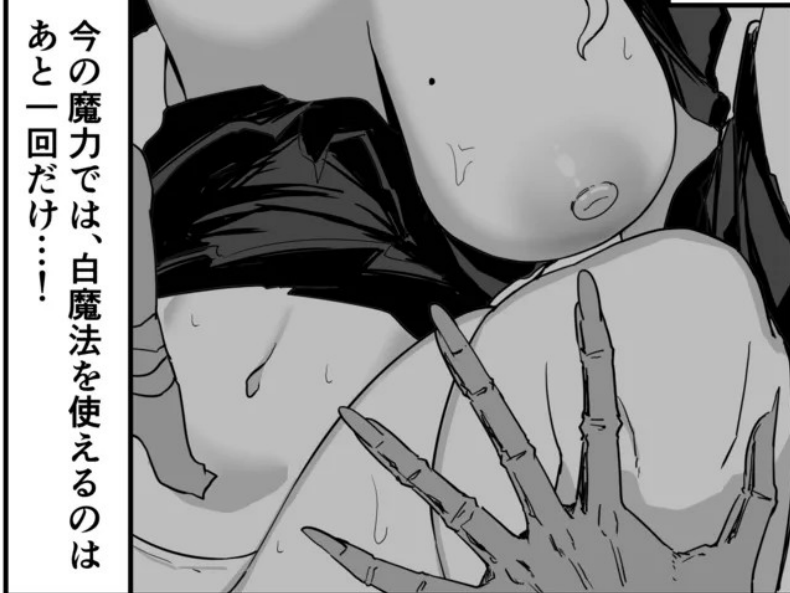


複数の長い触手…



おそらくアレを駆使し、
獲物を捕らえる様な攻撃を
仕掛けて来るはず

今の魔力では、白魔法を使えるのは
あと一回だけ…！





そして
一番の気がかりは

あの大きく
不気味な眼



かなり良くない
状況になる…

もし…あの触手に
拘束されてしまったら



うまく形容できないけど
嫌な予感がする

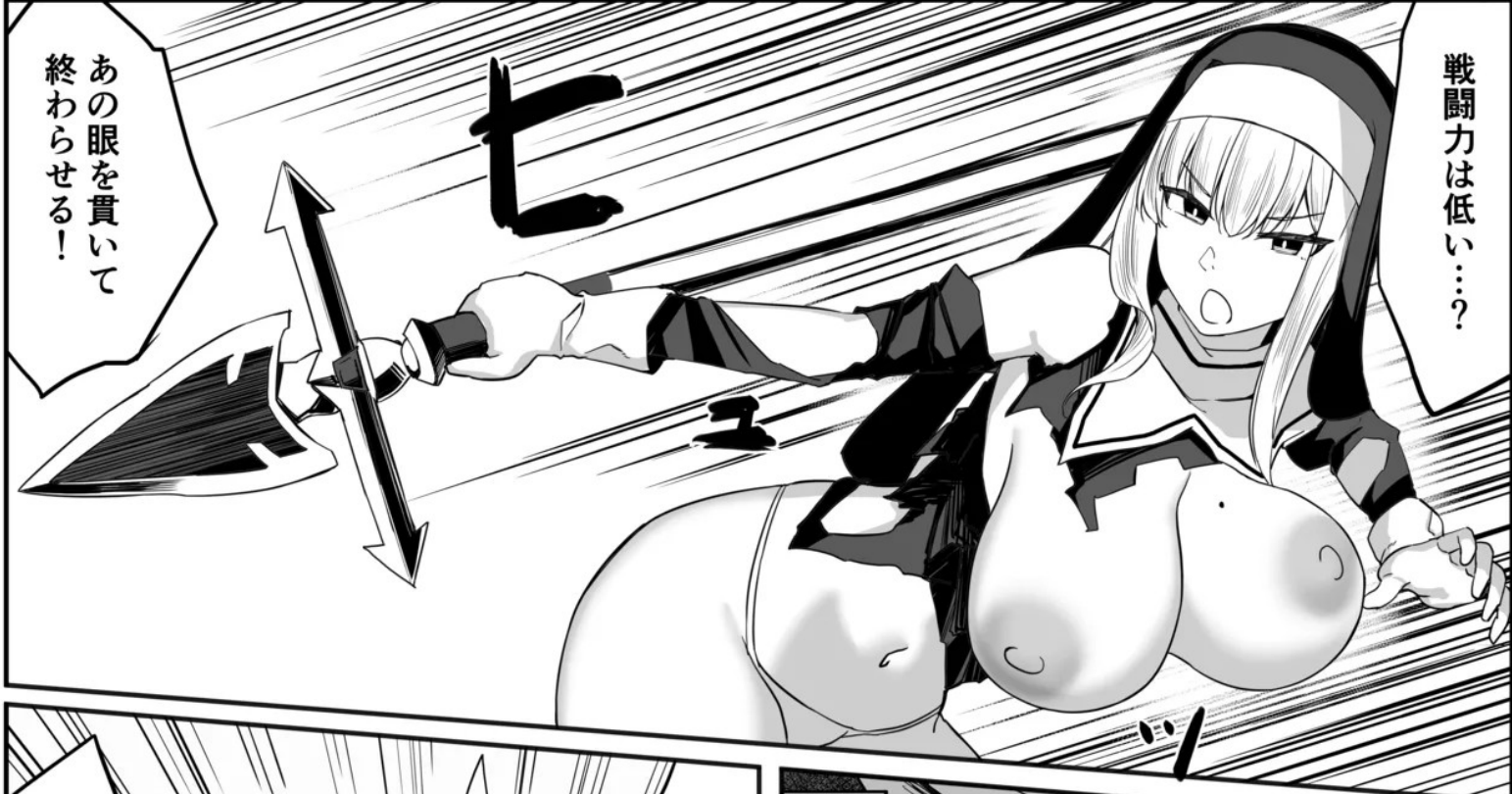
あの眼を見つめては
いけないと…!



動きは鈍い…!

パワーもそれ程では
ない





戦闘力は低い…？

あの眼を貫いて
終わらせる！

七

ユ

い



背後からっ…！！

しまった

ビクッ

ジュルルッ

ジュルル



!?

触手が地面に…？



その先は

一体どこへ…



うあっ…

くうっ…!

なんて力…

振りほどけないっ…!

ぷんぷん

ぷん

ギョッ

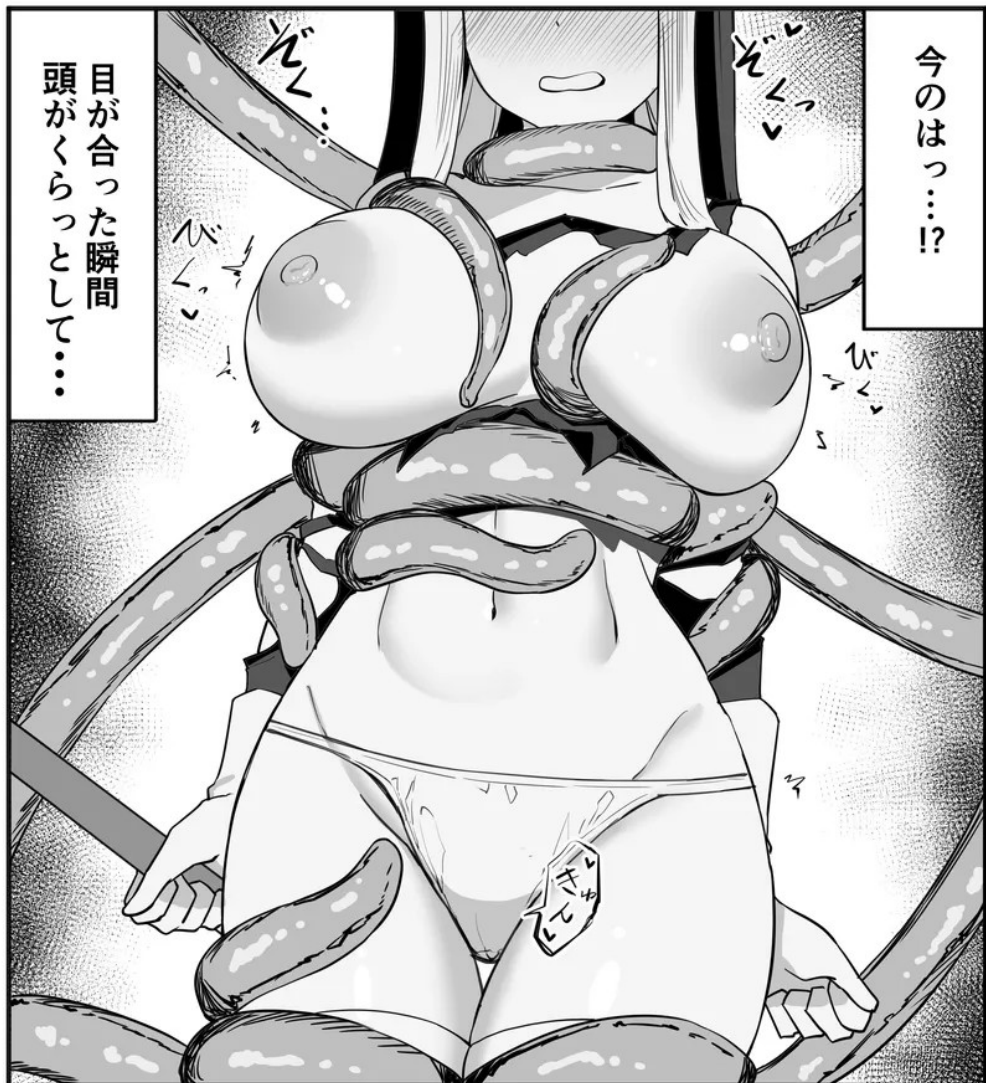
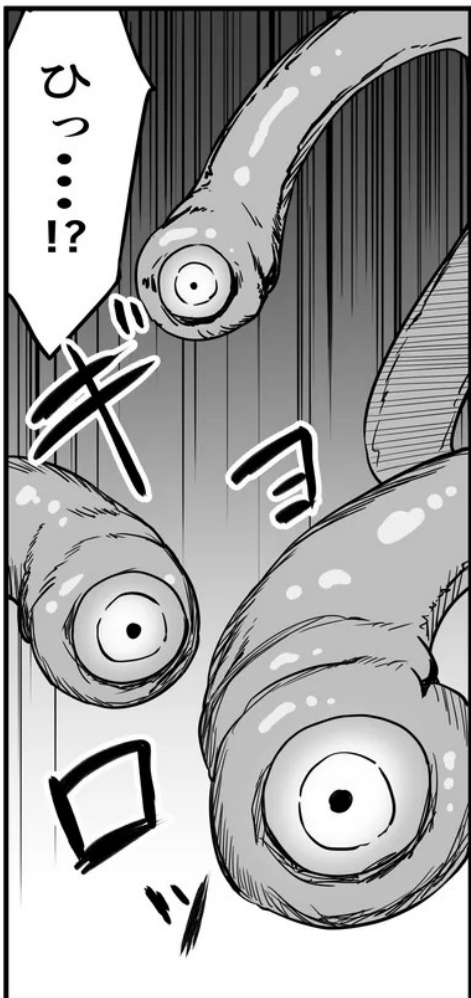
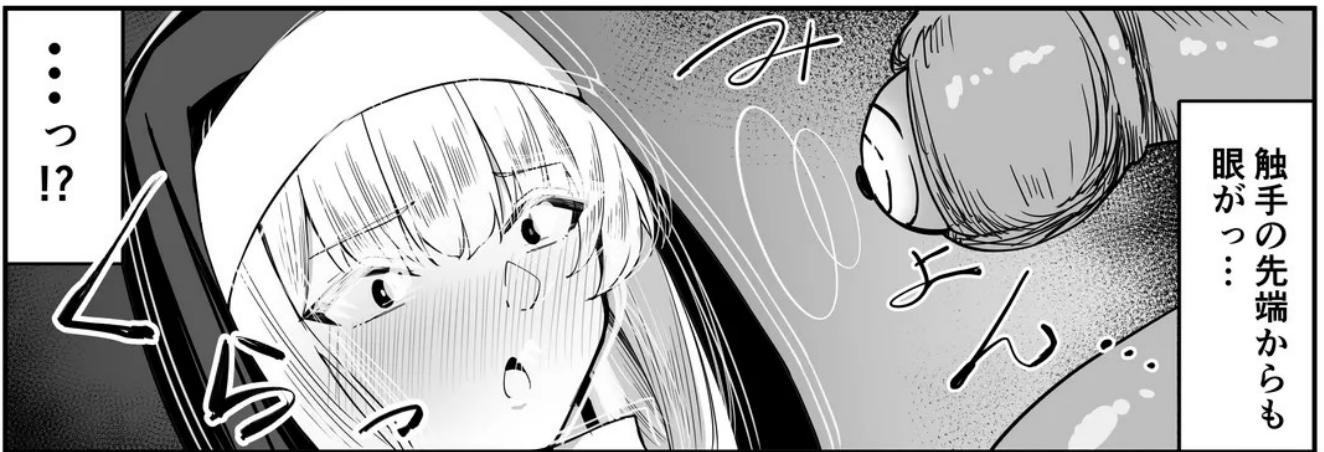
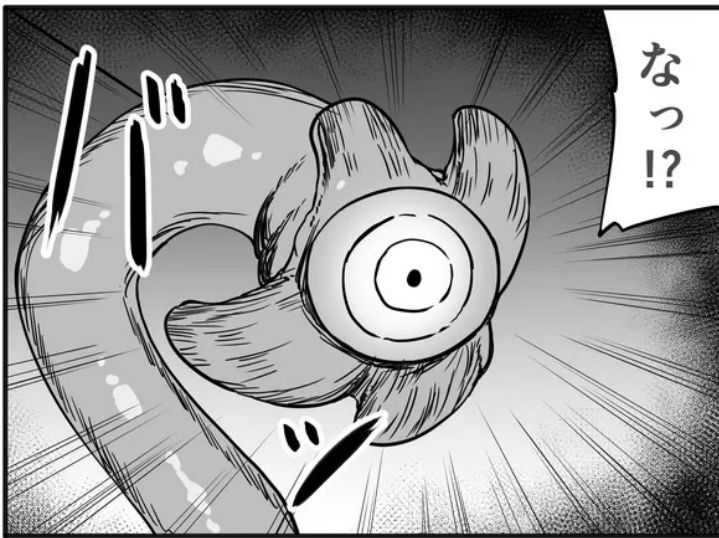


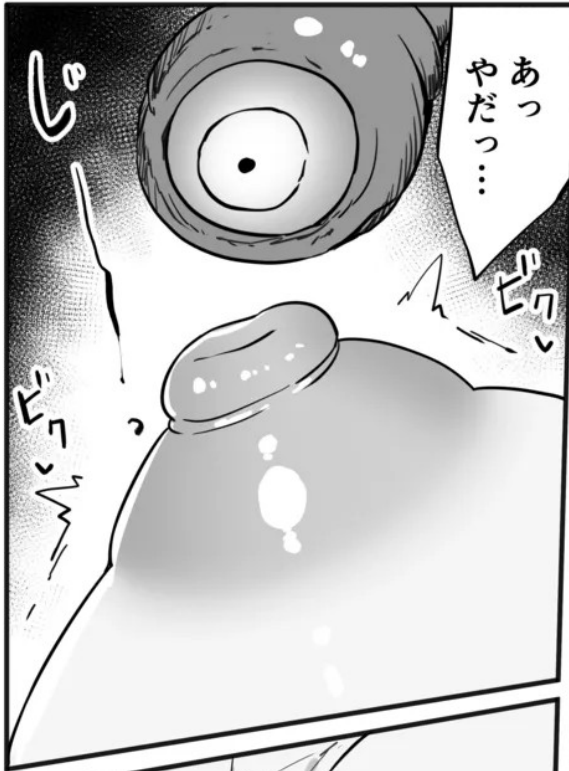
視線を合わせては
いけない…っ!



先程の攻撃は…

私を油断させる為に
わざと弱めに繰り出したの…?





あっ
やだっ...



見ないでっ...



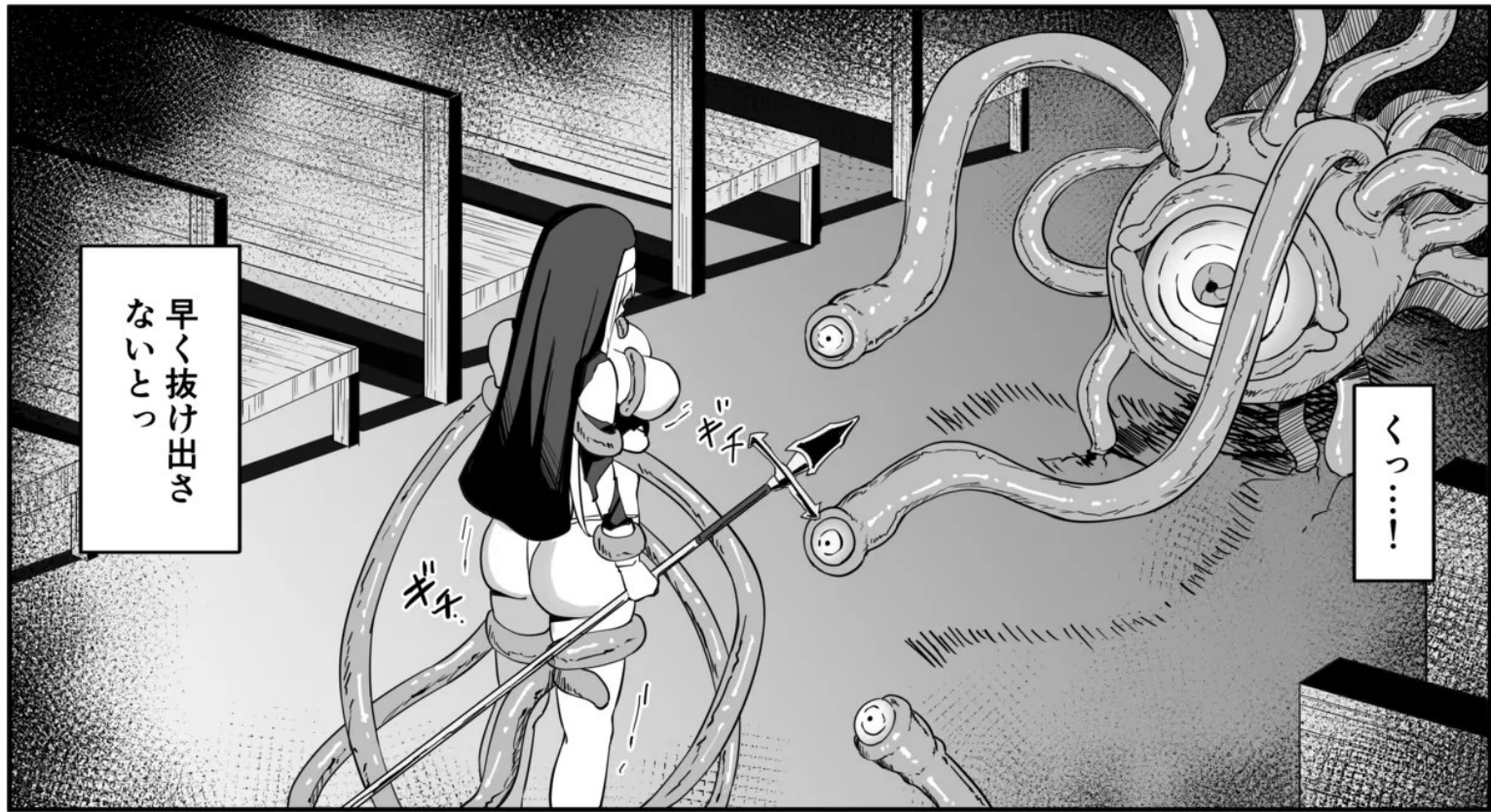
こんなに
たくさんっ...

何て不気味なっ...!!



どうして...
身体が火照って来るっ...!!

全身を舐めまわす様に
見られて...恥ずかしいっ...



早く抜け出さないとっ

くっ…!



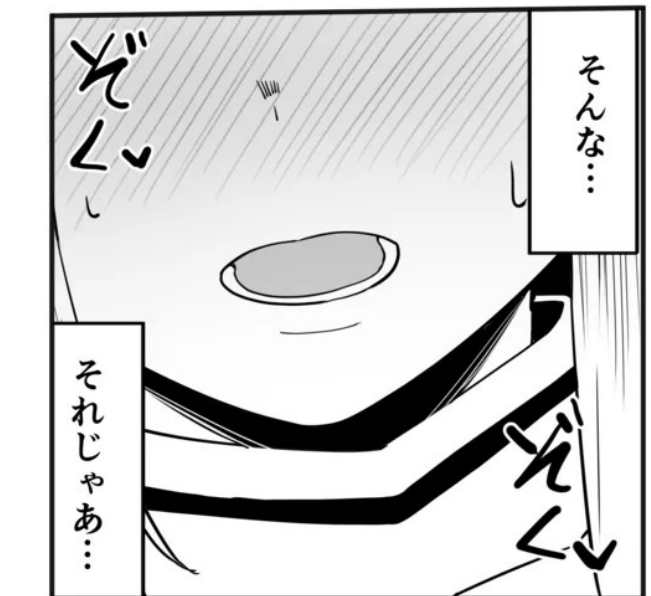
なっ
なぜ…!?



…?

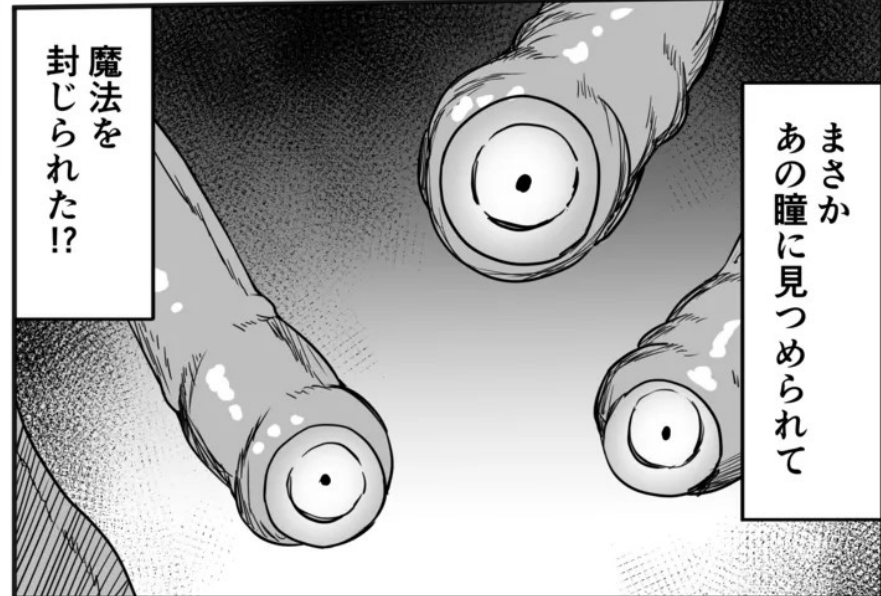


最後の白魔法を
使うしかっ…



そんな…

それじゃあ…



魔法を
封じられた!?

まさか
あの瞳に見つめられて

この拘束から

脱出できなう……?

う……やう……

じわ……

やだっ……

じた

ハ

は

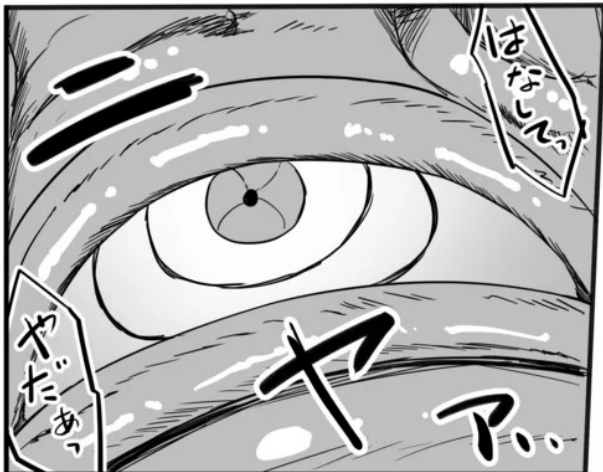
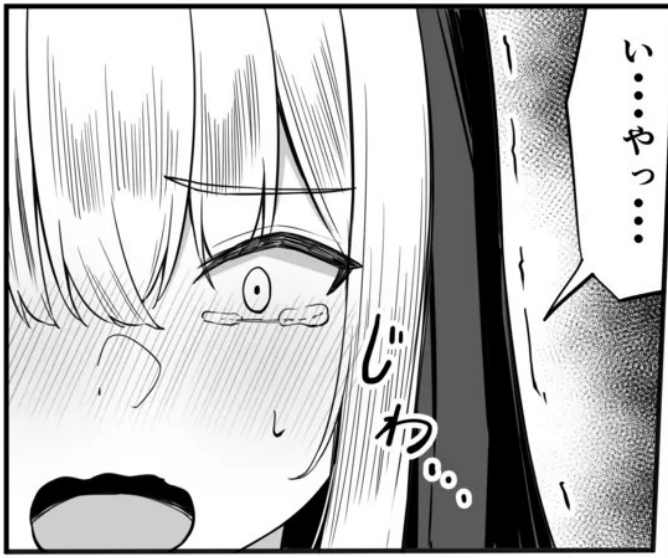
離して
下さう……!

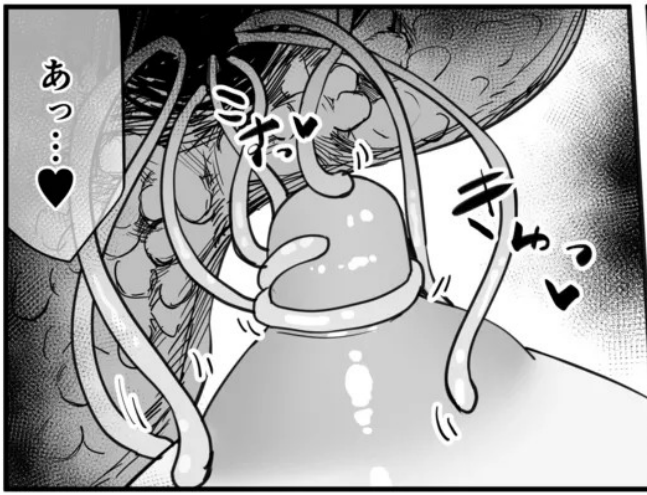
は

ア

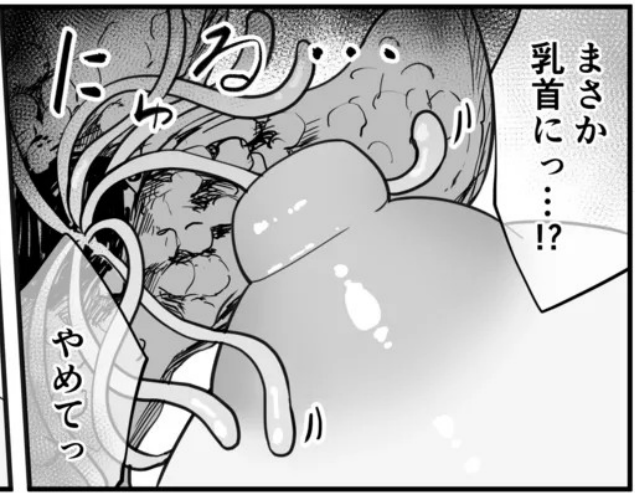
ア

やだっ





あっ…♡



まさか
乳首にっ…!?

やめてっ



やあっ…♡

んう…♡

あうっ…♡

あうっ
あうっ
あうっ
あうっ
あうっ
あうっ
あうっ
あうっ
あうっ
あうっ

あうっ
あうっ
あうっ
あうっ
あうっ
あうっ
あうっ
あうっ
あうっ
あうっ

な…なんでっ

あっ…

こんなことっ…♡

先端を弄ばれて…

甘くてくすぐったい刺激が
押し寄せてきて…

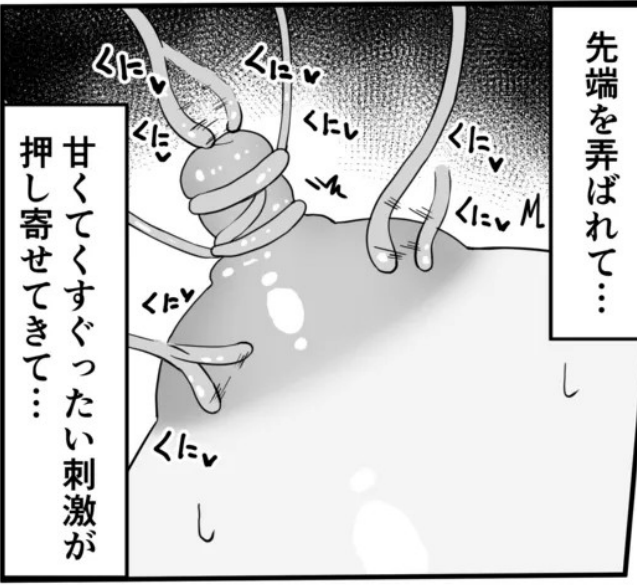
変な声…

でちゃうっ♡

胸を弄られて
下腹部が反応してしまうっ…

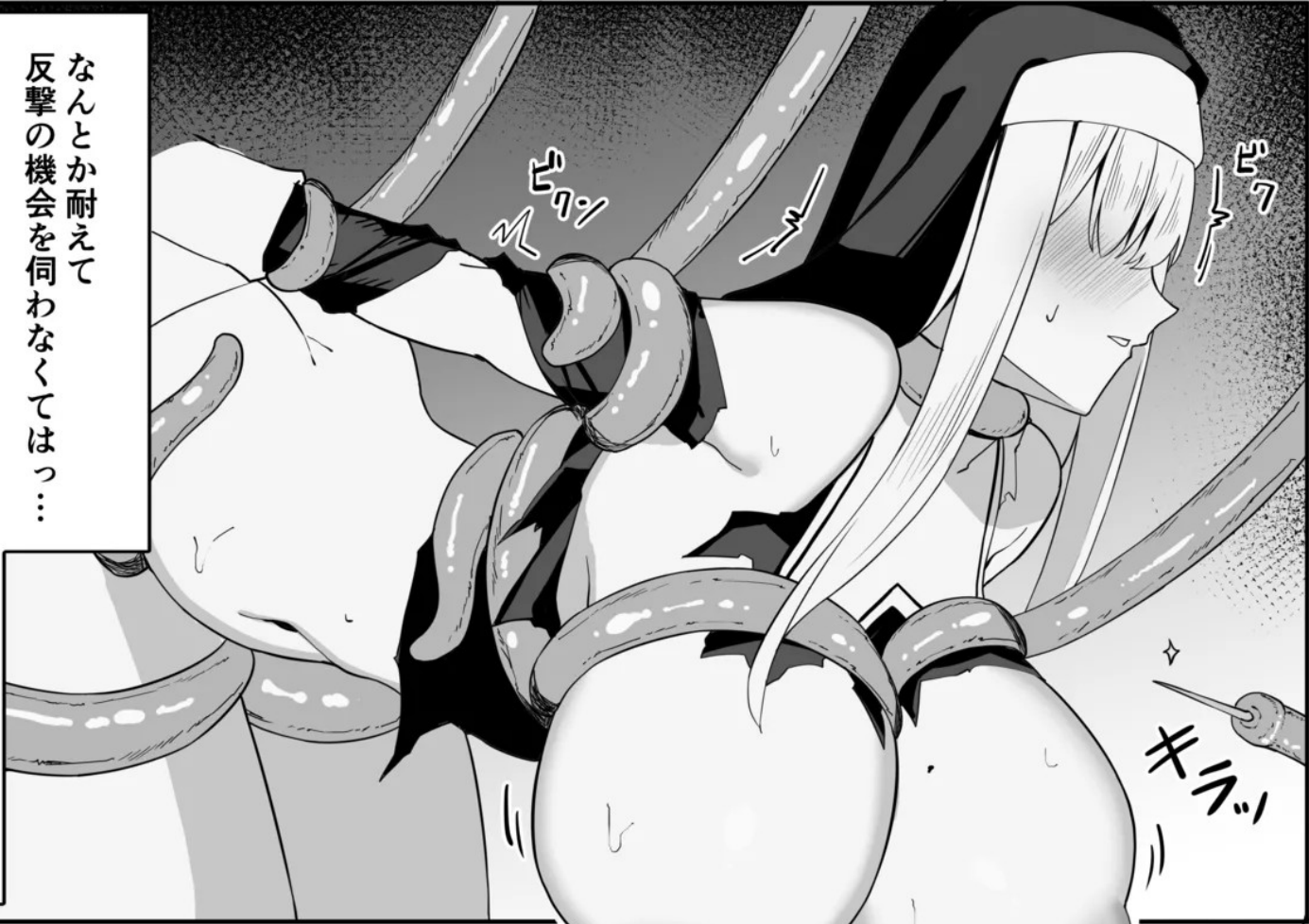
こんな魔物に辱められて
劣情を抱いてしまうなんて…

ありえないのにつ…!



なんとか耐えて
反撃の機会を伺わなくてはっ…

封じられた白魔法も
時間が経てば使える様になるはず…

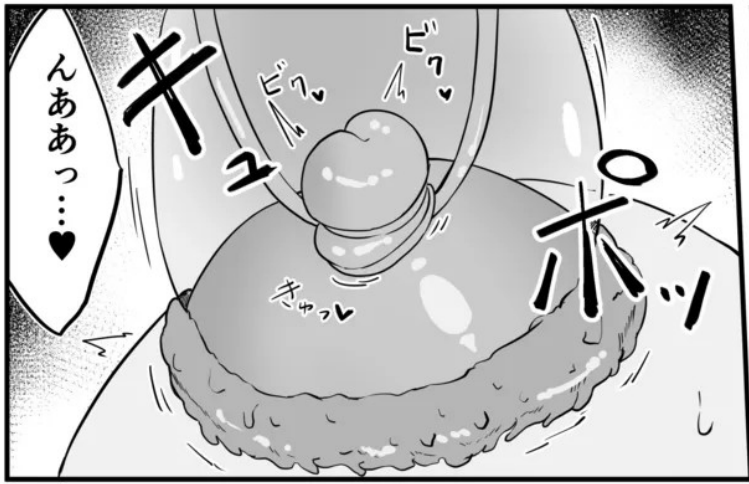


何かっ…
注入されてっ…!?

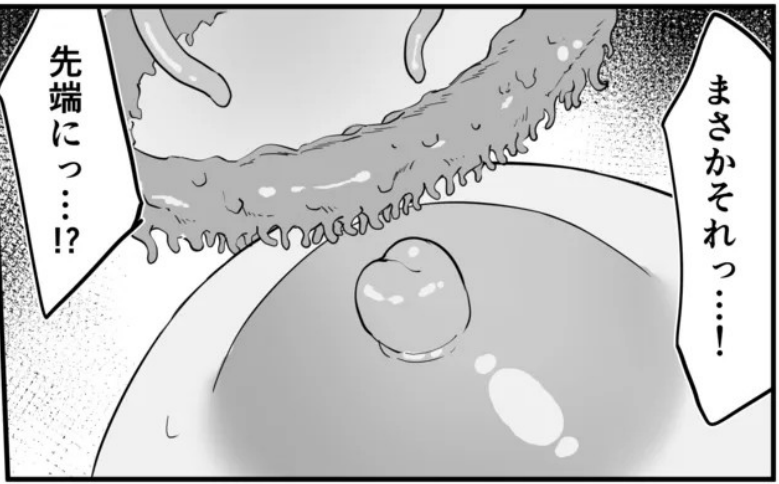


胸が…
熱くてうずくっ…!?





んああっ…♡



先端につ…!?

まさかそれっ…!



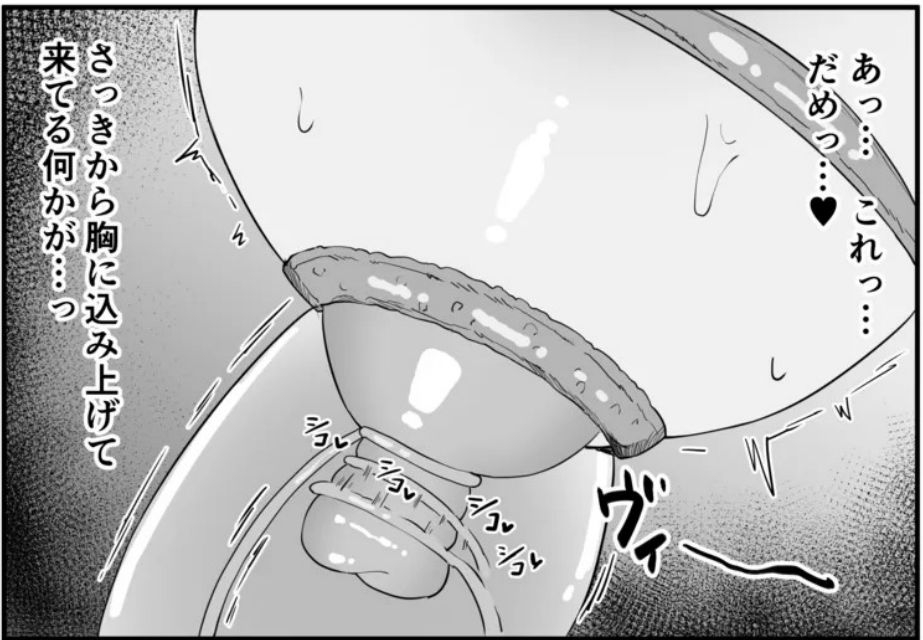
今…そこっ…
弄られたらっ…♡

震えだしてっ…♡

やあっ…



出る♡ 出る♡
でちやうっ♡



あっ…これっ…
だめっ…♡

さっきから胸に込み上げて
来てる何かが…っ



これっ
乳首からっ♡

母乳がっ…
なんでっ♡



気持ち良すぎでっ♡

おかしくなるっ♡



頭のなかぜんぶっ♡

快楽に支配されてっ…♡



んおあし

びゅるるる



ああ

胸だけで…
イカされるっ…♡

イクっ…♡

身体に力が…

入らない…

まるで…

はー♡

はー♡

魔力切れの様な
倦怠感が…

まさか今ので…

魔力を吸い出されて
…？

ポア…

ポア…



今度は…
なにっ…!?

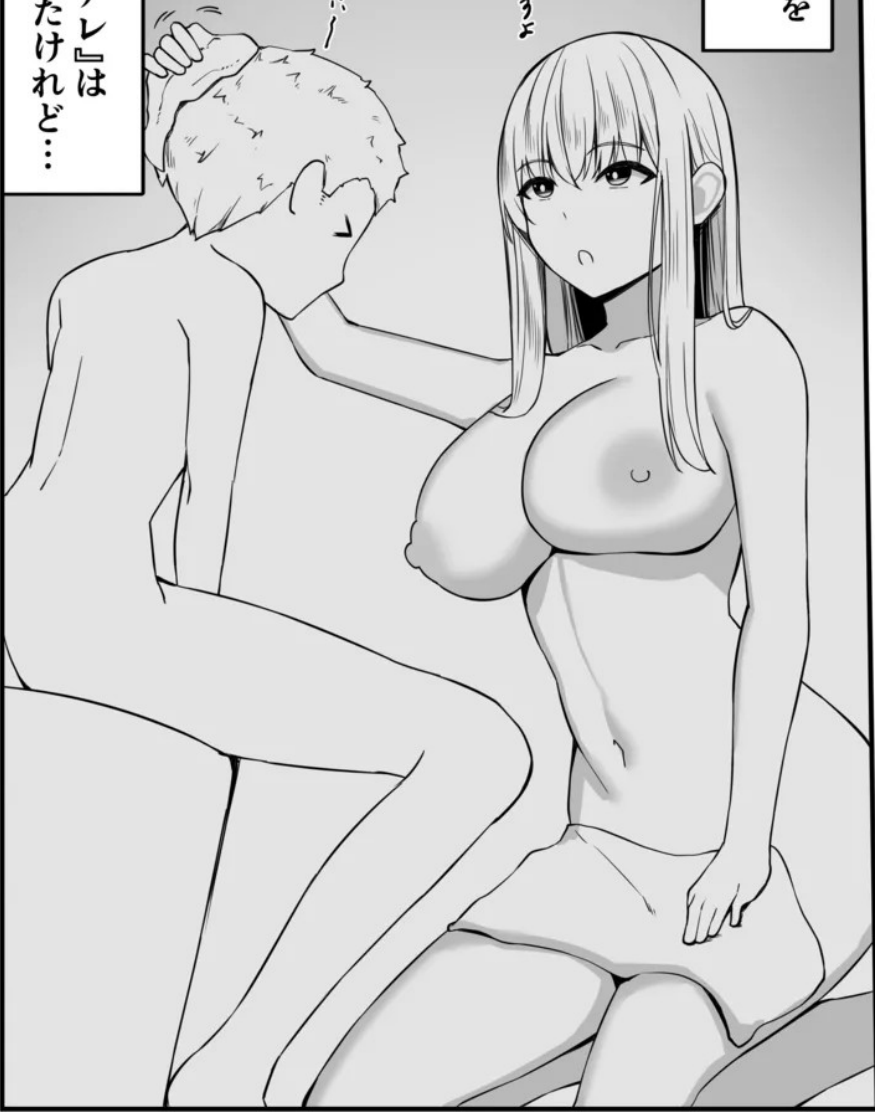
まるで男性器のような…
グロテスクな形状

孤児院で身を
清めるとき

ちゃんと髪を
揺かばさ
げとてうよ

面倒くまー

小さな子の『アレ』は
見たことあったけれど…



も…もし大人になったら
あの子達も…

こ…
こんなに…大き…!?



私…
何を考えて…

こんなバケモノと
あの子達が一緒なはず
無いのに…

あの眼に見つめられてから
私…ずっとおかしい…

そうだ…あの眼の
せいだから…

あの眼が悪いから

仕方ないよね





鼻をつく干物の様な
独特なニオイ...



先端から
ちよっとしよっぱくて
ニガい汁が溢れて...



それをいやらしく
舐めとる行為...

なんて
背德的なの...



うっ



このまま口に
啜えこんだら

一体どんな味が…



あっ!!?

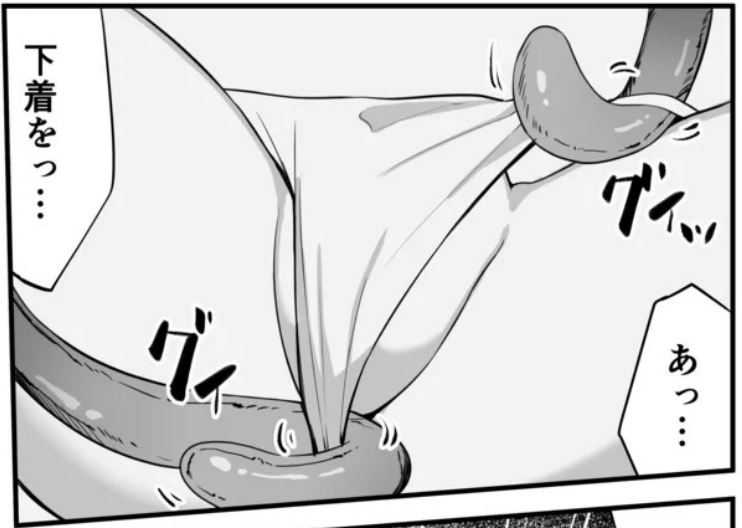
ガッ

ば



それだけはっ…

やめてっ

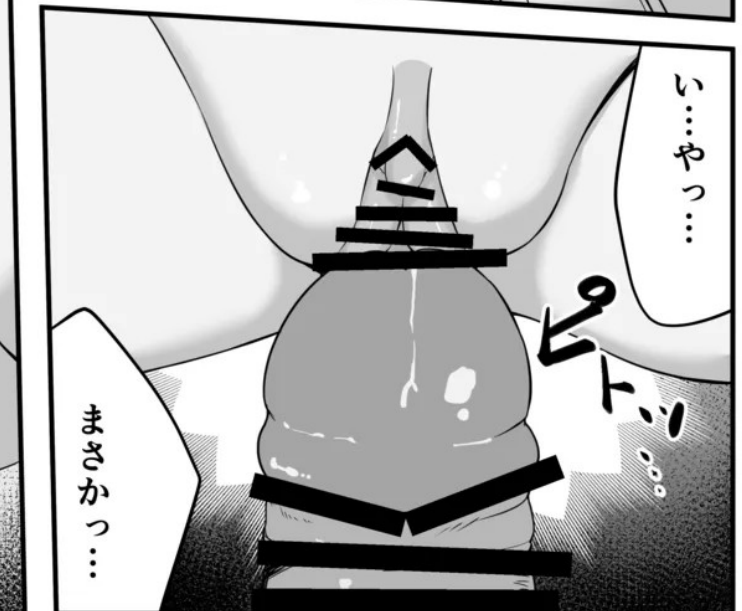


下着をっ…

あっ…

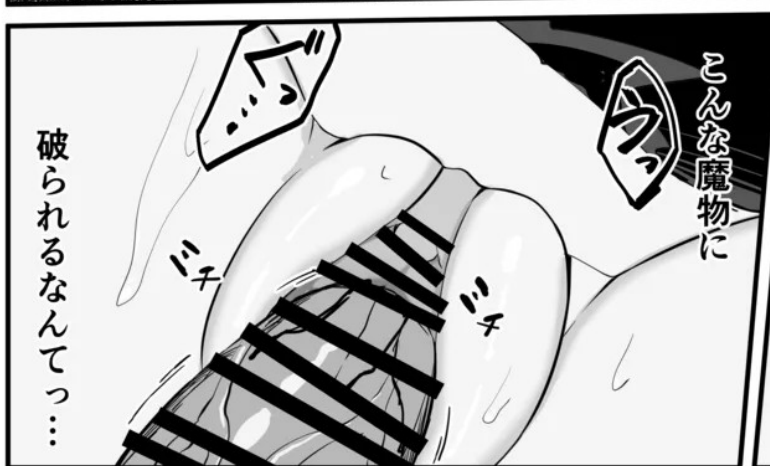


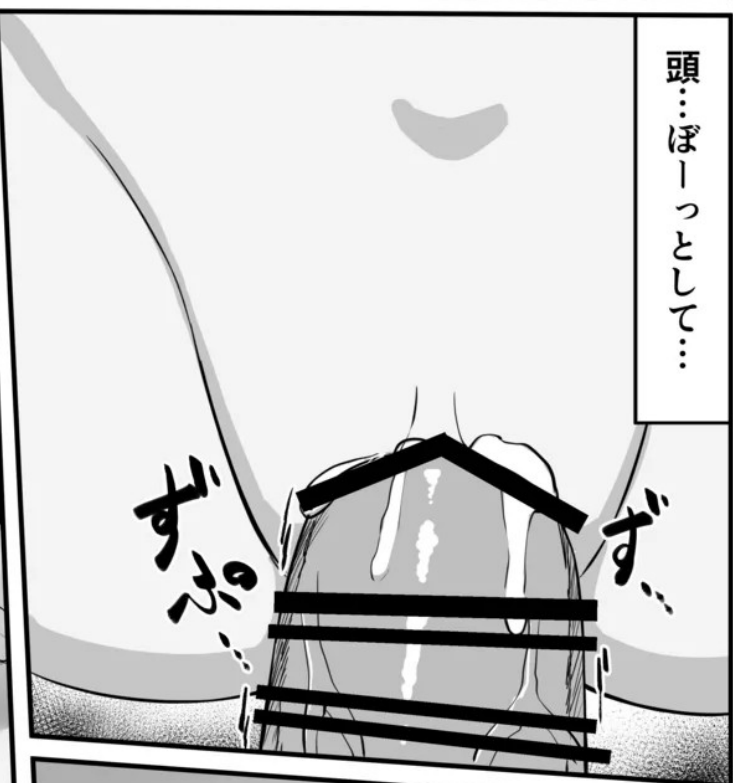
ああっ

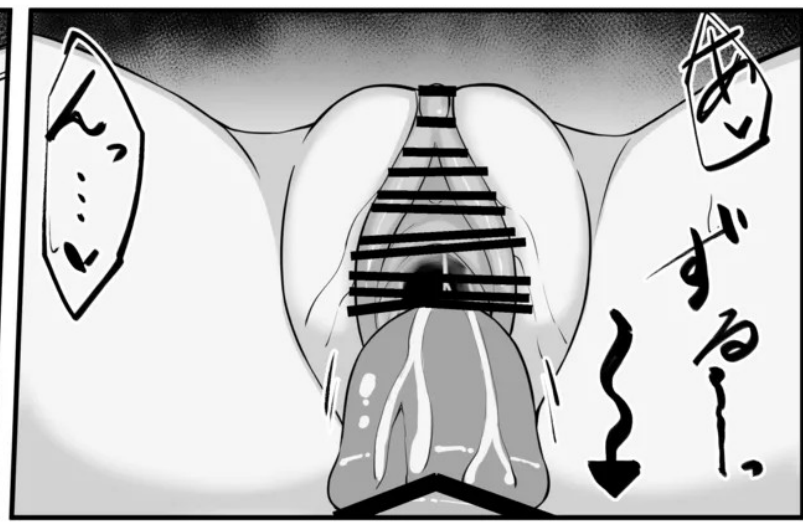


まさかっ…

さ…やっ…







頭の中に電流が走った
みたいな感覚っ…



一突きされる度に
意識が飛びそうっ…♥



んっ

はしたない声が
止まらないっ♥



これが…性行為の
快楽なのっ…!?

こんな気持ちいいこと
覚えてしまったら



もう…♥

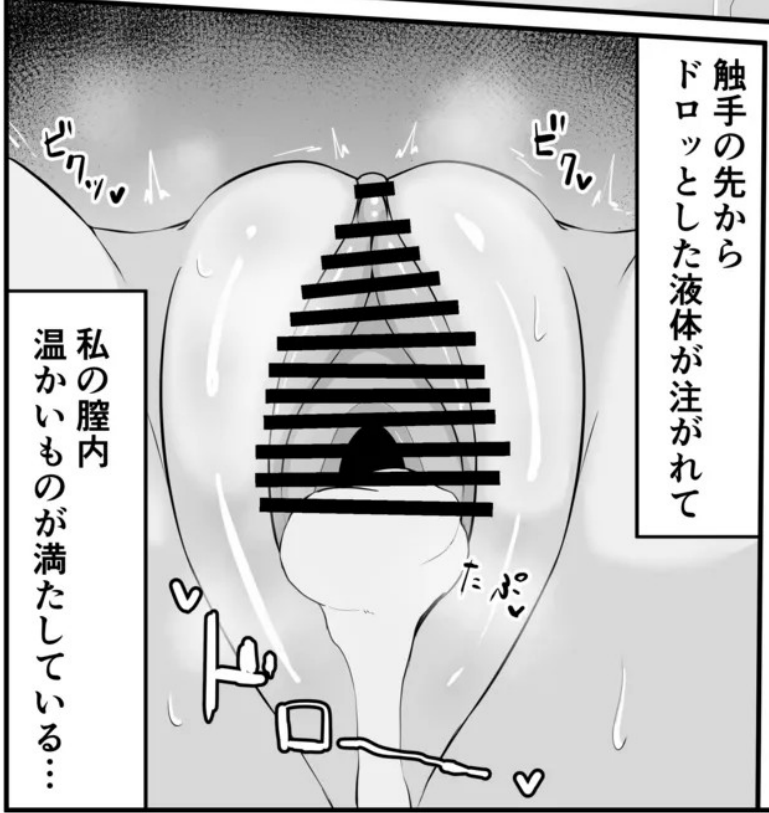
ズン
ズン





うああ…

あああっ…



触手の先から
ドロツとした液体が注がれて

私の膈内
温かいものが満たしている…



なんて甘美な
感覚っ…♥

これが…
絶頂っ…♥

そっか…
私…



この魔物に…
“犯され”ちゃったんだ

戦いに負けて



恥ずかしい格好で
拘束されて

抵抗できないまま
貞操まで奪われて



なんて…
惨めなの…



精神力、
身体能力

ともに素晴らしい
逸材ですな

彼女は
さぞ名のある
ガーディアンに
なるでしょう

よくぞ厳しい鍛錬を
乗り越えた



そなたを正式に
"ガーディアン"と認めよう

このランスは
聖なる守護者の証



強く清い心を
決して忘れるでないぞ



流石は私の
妹分ね



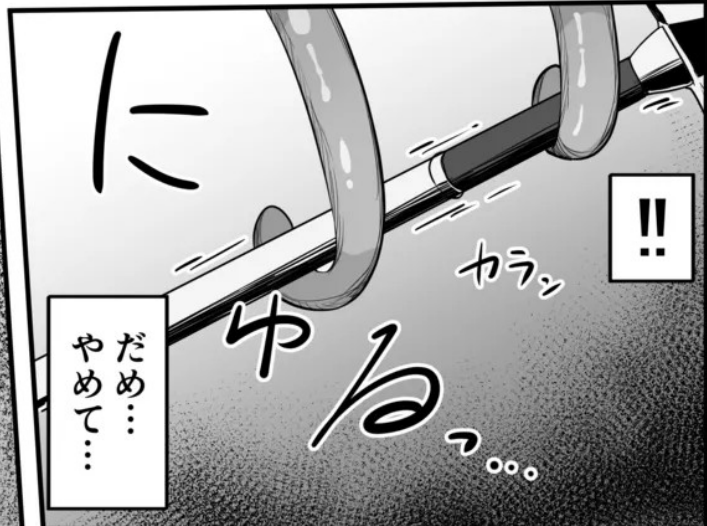
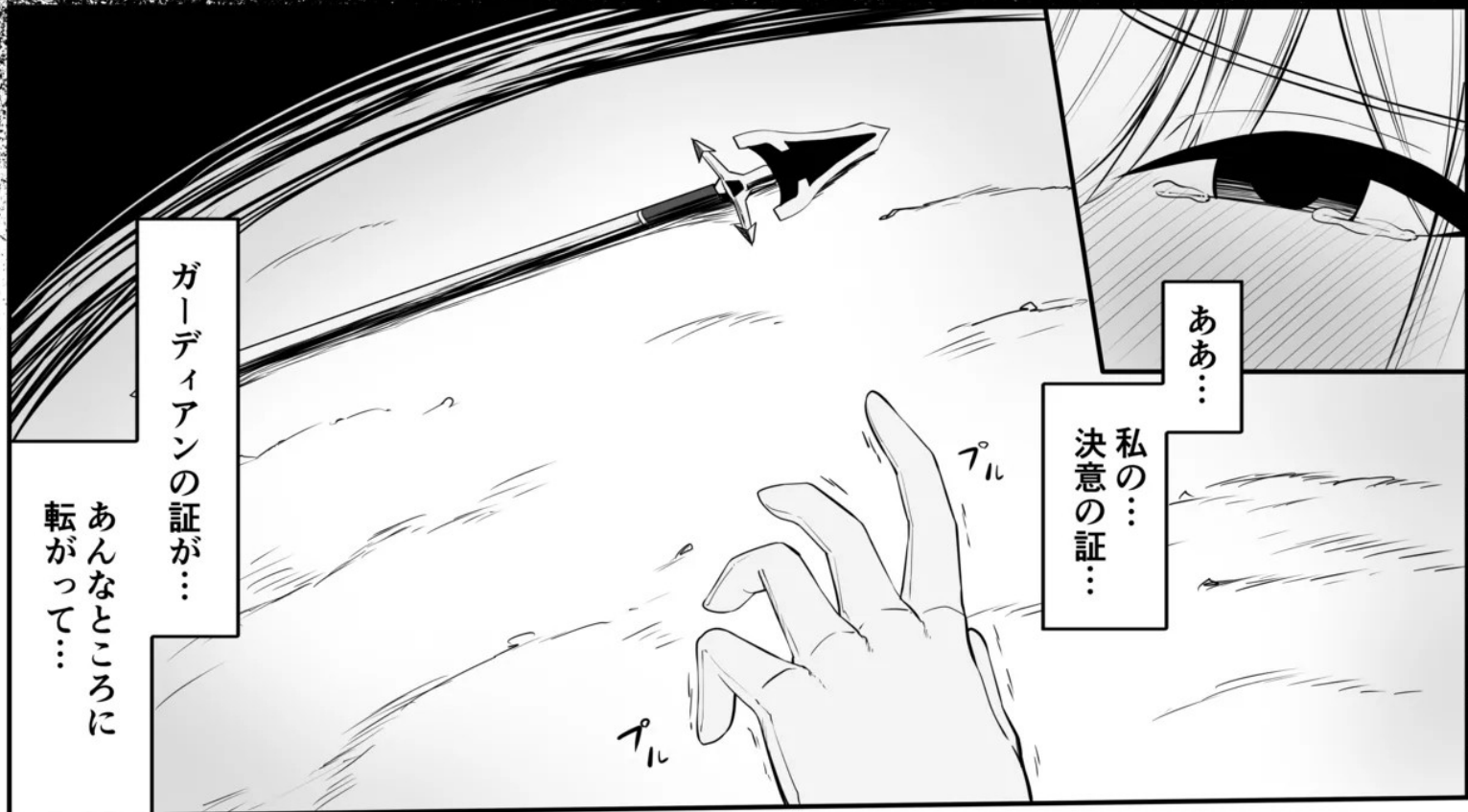
アンタになら
安心して孤児院を
任せられるわ

絶対に
守り通してみせる



この槍に誓って…!

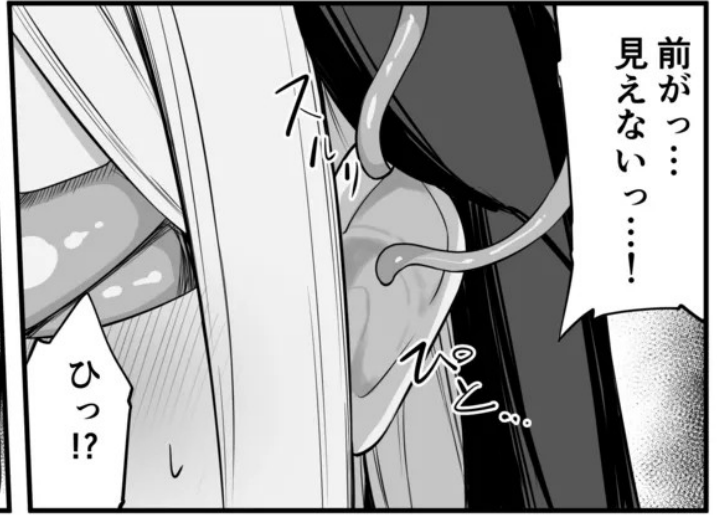






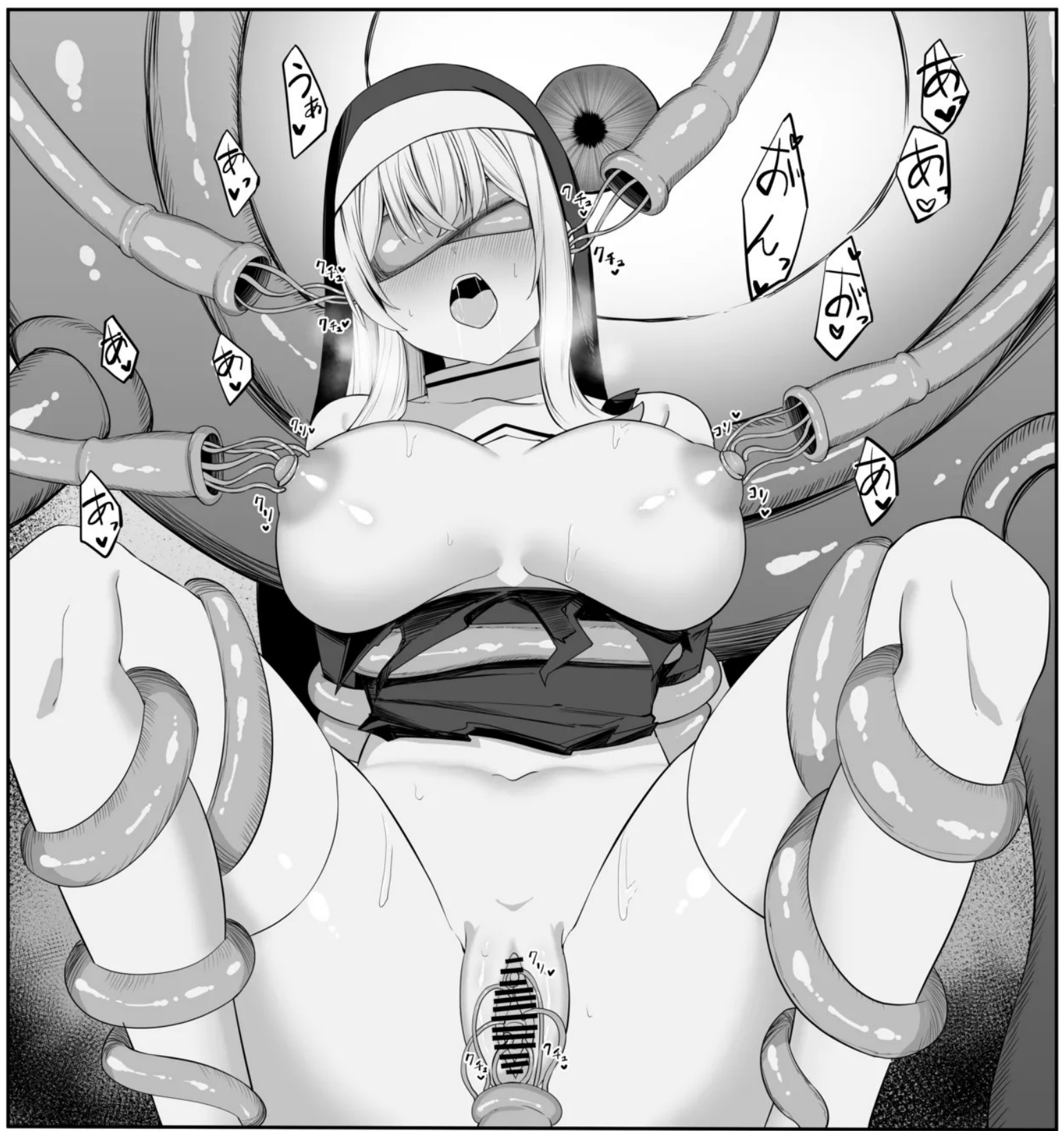
いやあああぁっ...

耳に...
いやっ...



前がっ...
見えないっ...!

ひっ!?



あっ

あっ

あっ

あっ

あっ

あっ

あっ

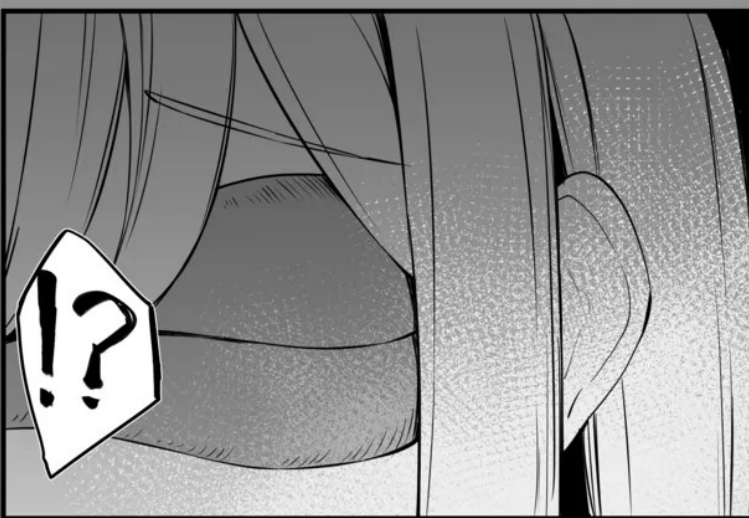


頭…
ぼーっとする…



急に
何も聞こえなく
なった…?

…?



!?



もういいじゃない
楽になりましょ♡



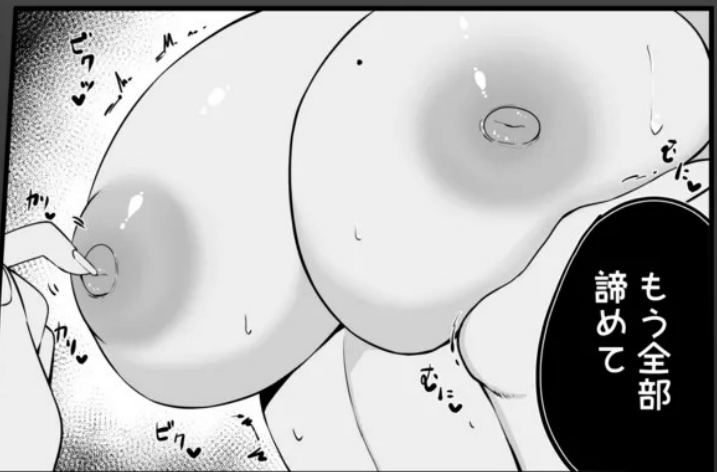
やっきみたいで…
ぐちゃぐちゃに
犯されたい♡

やめて…
なにこの声…



もう勝ち目なんて
無いの♡

武器も魔力も…
尊厳まで奪われて…



もう全部
諦めて

あの快感を
知ってしまったら…♡



もしかして…
私の…声なのっ…？

子供たちが
寝静まった後に

こっそり自室で
自慰行為なんかじゃ
もう物足りないよね…♡

な…?!



やめてっ…

私の声で…
私の頭の中で…

そんなこと
思っ…てないっ…!!

変なこと
言わないでっ…!!

はっ♡

はっ♡

ギッ♡



何言ってるの？

これは『私』の
本心



ニヤモノなの♡



上っ面の感情だけで
足掻いている貴女こそ…



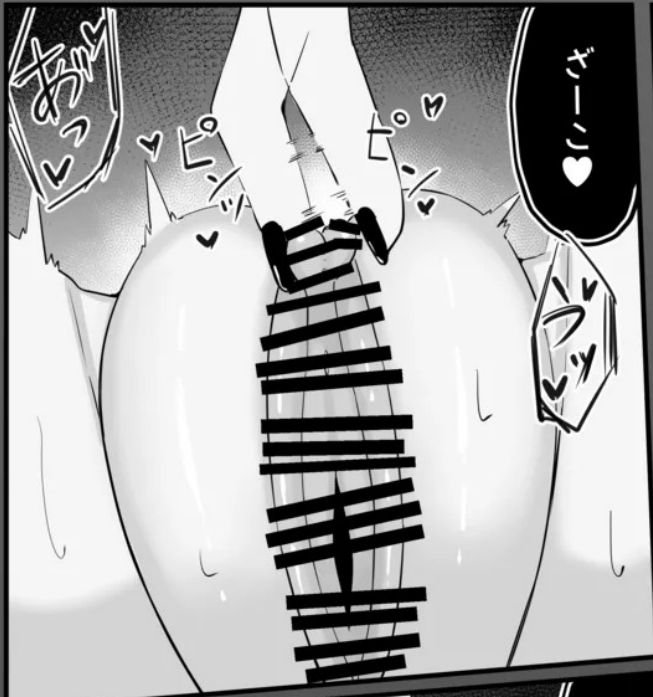
もう絶対に勝てないって
分かっているのに



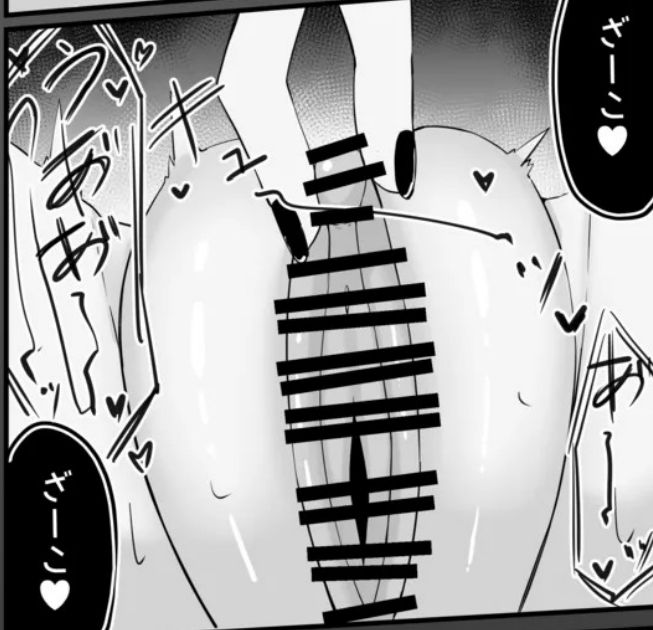
何がガーディアン
なのよ…

あんな醜い雑魚モンスター
に良いようにされて？

本当に弱くて無様ね♡



ヤーン♡



ヤーン♡



ほーら♡

もう我慢なんて
しなくて良いから…



ほら
もう堕ちちゃえ♡

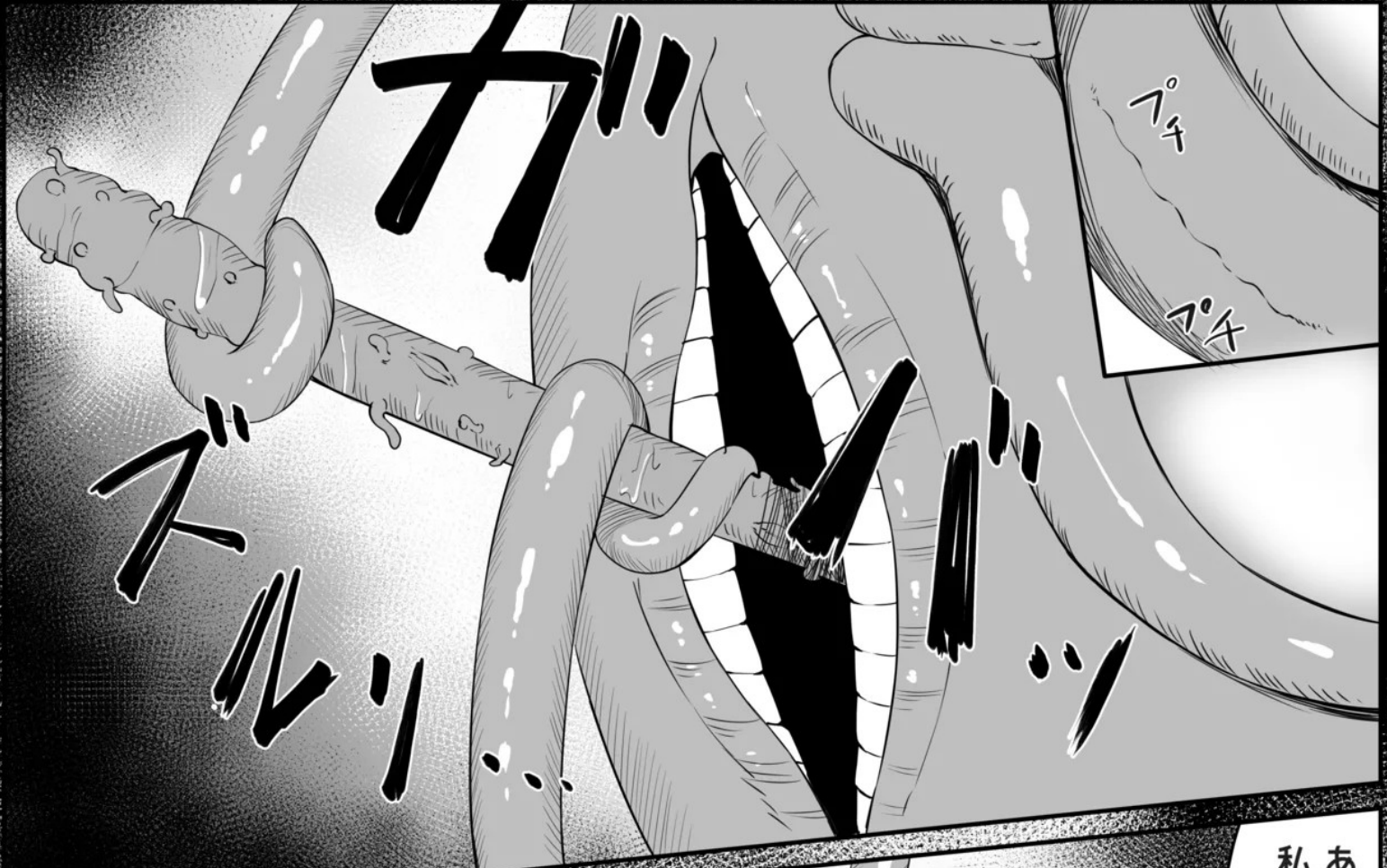
雑魚モンスターにも勝てない
雑魚シスター♡

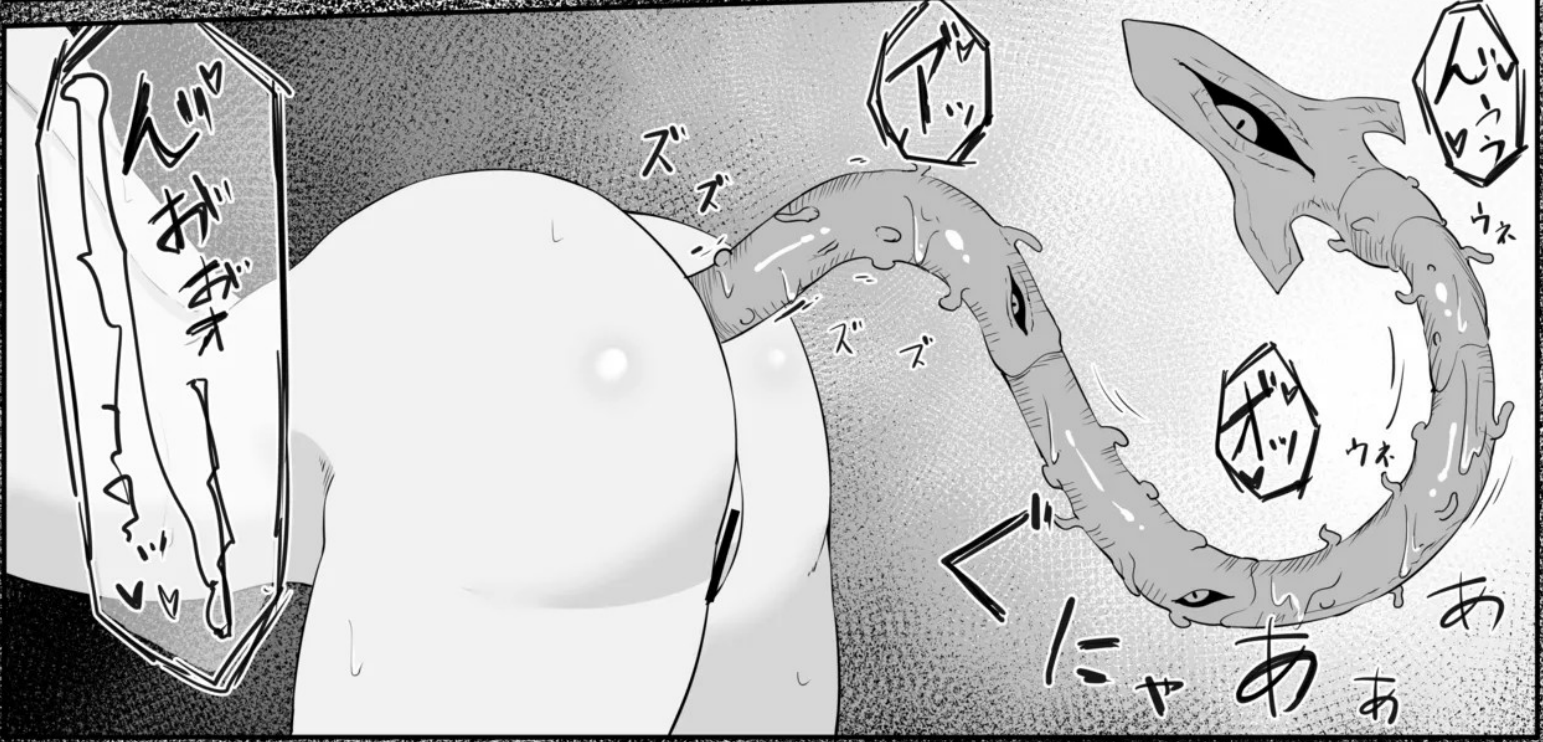
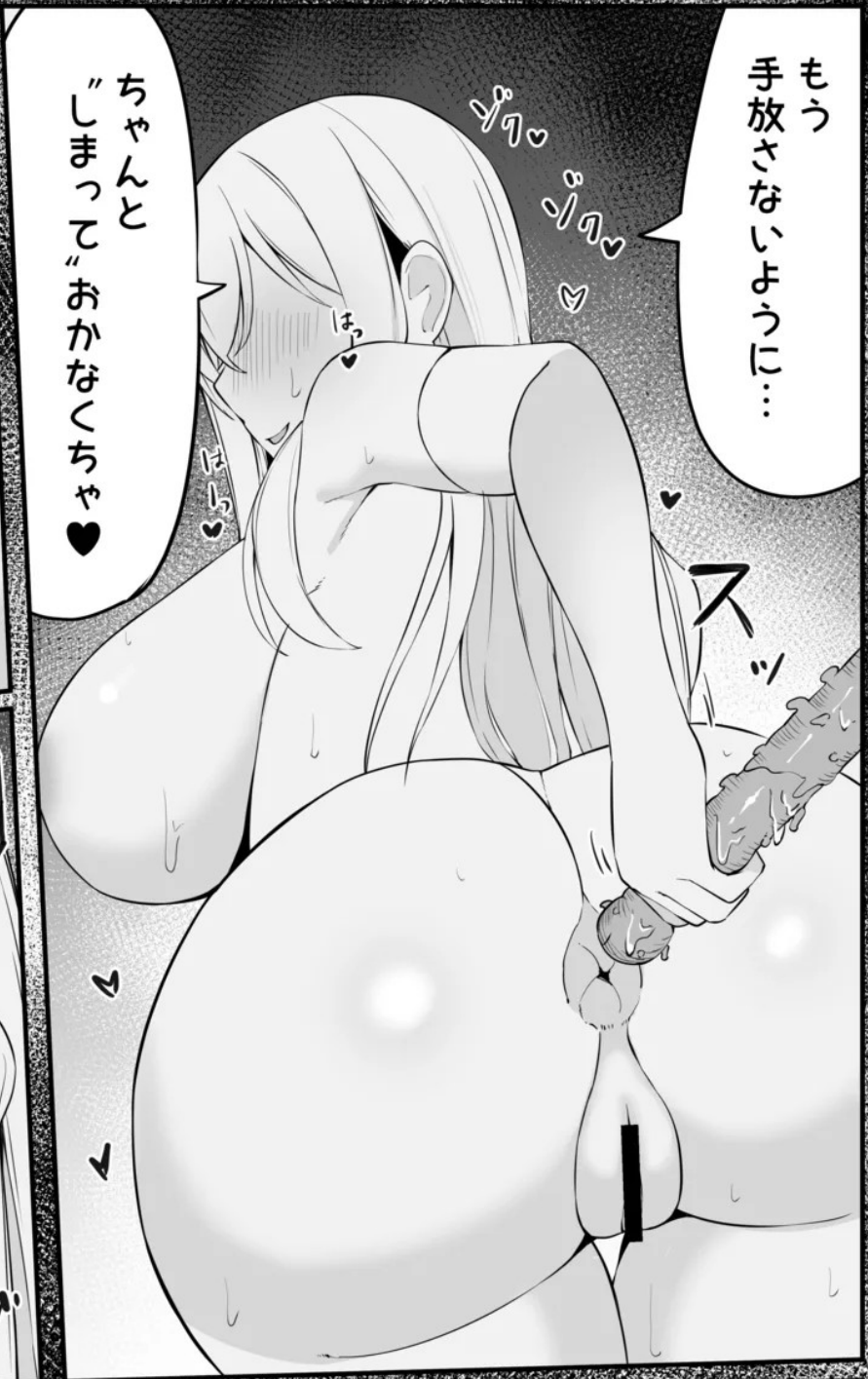
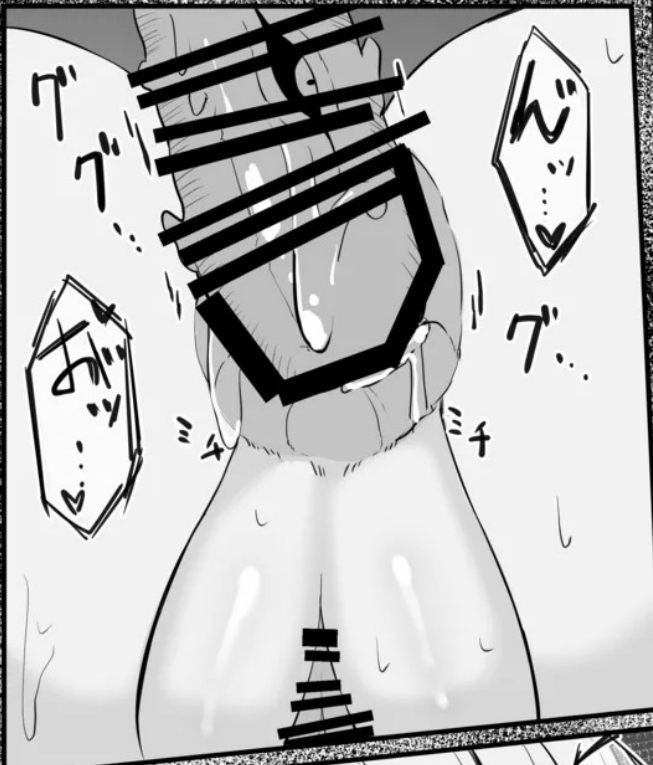


負けちゃえ♡



堕ちちゃえ♡







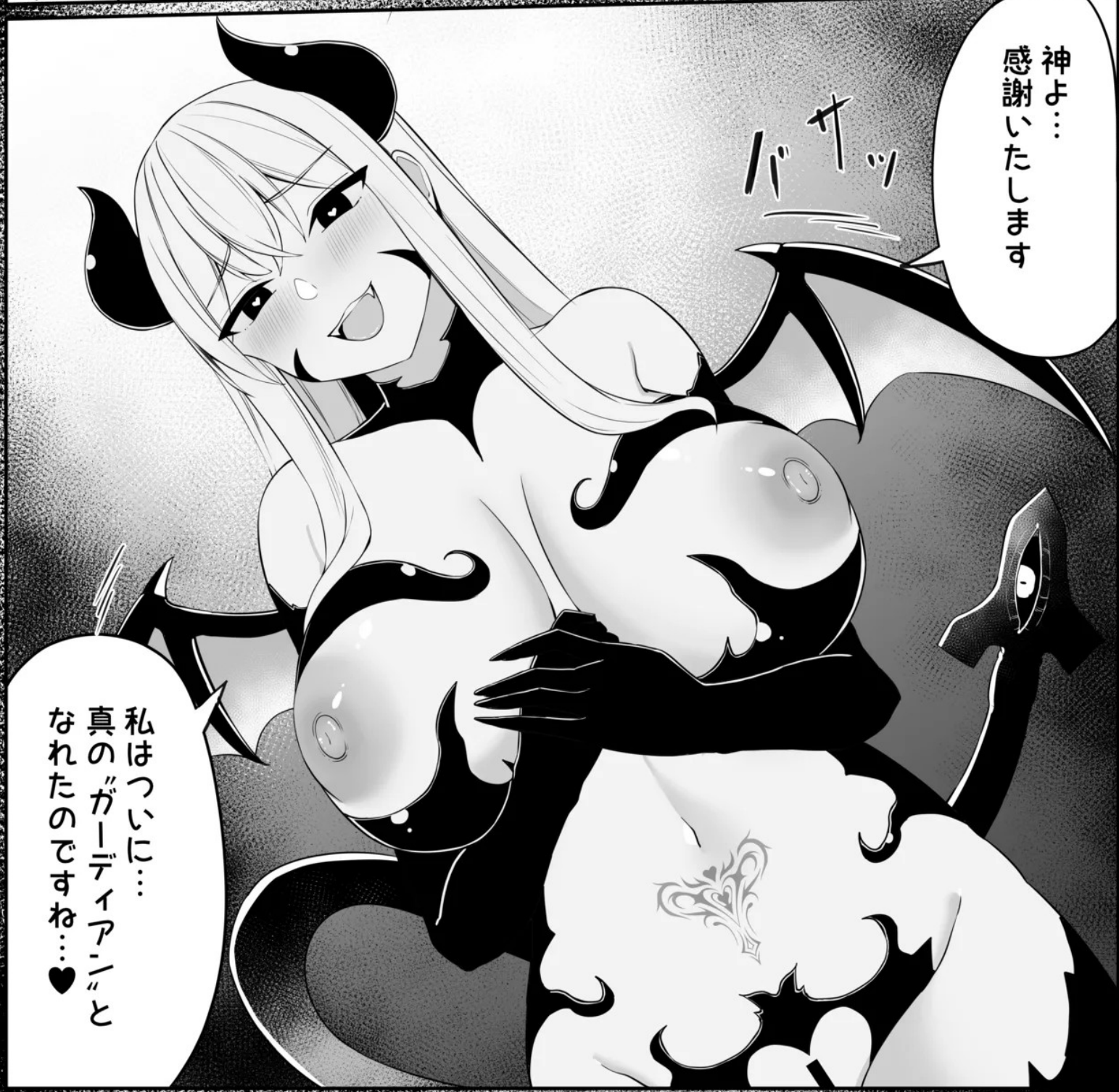
聖なるランスはもう私の身体の一部…

ああ、なんて素敵な事なの♡



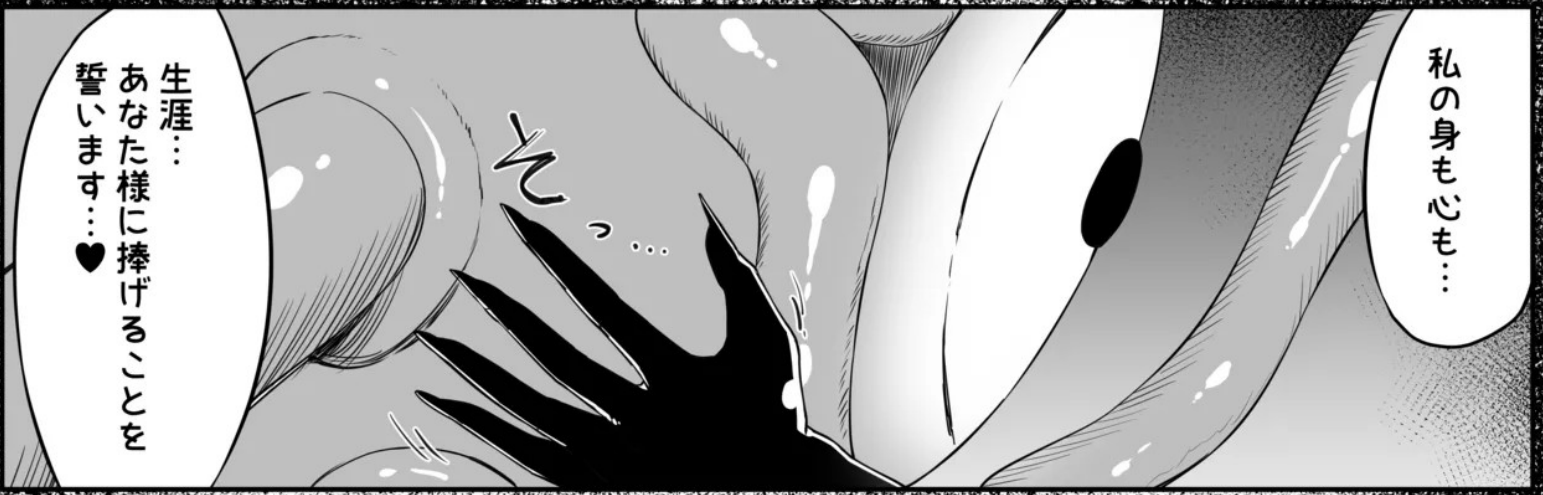
ふふ…♡

まるで尻尾みたいに自在に操れる♡



神よ…感謝いたします

私はついに…真の「ガーディアン」となれたのですね…♡



私の身も心も…

生涯…
あなた様に捧げる…とき
誓います…♡

えっ…



大丈夫だよ
心配ないって

でも…
ずいぶん時間経ってるよ…?



ううっ
こわいよお…

おねえちゃん…
大丈夫かなあ…



おねえちゃんっ!
魔物、
やっつけたんだねっ…!

はっ

ガ
チャッ



おねえちゃん…
魔物にやられちゃったのかな…

だから
大丈夫だって!

うええええん…



ひっ…!

魔物…？
そんなもの、最初から
居ませんよ…

それより、私たちが
お守り下さる神が

ついに降臨なさったのです♥

おねえ…ちゃん…？

どうしたの…
その恰好…

それに…後ろの…
ば、化け物っ…！！

ふふ…
怖がらなくて
大丈夫よ…♥

さあ、
“私たちと一緒に
行きましょう♥

戦うシスターが触手モンスターに

敗北する話

〜その後〜

ここから先は支援サイトでは未公開の
DLsite版・FANZA版限定の追加ページです。

ある夜を境に、とある孤児院との
連絡が途絶えた

孤児院のシスター、
子供たちの安否は不明

ギルドは冒険者に向けて
魔物の討伐依頼を発注

討伐対象は孤児院付近の
森で目撃情報があつた

金色の髪をなびかせる
『サキユバス』

この辺かな…

ボク…
戦うの初めてだよ

サキユバス一体の
討伐だよ

大丈夫
だって！

…ふふっ

チャームを防ぐ
アクセサリだって
買って来たし…

ハス…



そ…そんなっ…

ただの
サキュバスがっ…
なんでこんな強っ…



うわあああっ



『あのお方』のとーっても
強い力を分けてあげますから…♥

これから、私と
とーっても気持ちいいコトをして…



もう終わりですよ…？

ふふ、とても弱くて
可愛い冒険者さん…♥



でも安心して
くださいね…

フ…

うふふ
年若い女の子みたいなの
顔立ちなの…

とても立派な
ものをお持ちですね…♡

あんっ♡

ほらっ
我慢せずに…

あなたの精液…
ぜひ私に
出してくださいますか♡

あゝ♡

びゅん♡

おん♡
おん♡

ぬん♡

ぬん♡

おん♡
おん♡

あゝ♡
あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡





こちらの手淫で
十分でしょう♥



おねえさんには
物足りなそうなので…

あなたのは
ちよっと…



さあ
お次は…

うーん



ほらほら
しこしこ

ちくびも
かりかり

どうですか？

頑張っておせーし
びゅっぴゅっしましよーね

あはっ♥

よくできました♥



さて：
弱いニンゲンの子種は
ぜーんぶ出し尽くした
ところで：

私のおっぱい：
たんと吸って下さいね：♡

『あのお方』の強い成分を
いっぱい含んでいますから：

弱い弱い
あなた達も：

抵抗したって
無駄ですよー

ふふ、本当に
おつむまで弱くて
可愛らしいですね

こんなもので私のチャームを
防げると思いましたが…？

すぐに『彼ら』の
仲間になれますわ…

!?



うふ、良かったですね

それと、街にまた噂を流してきたよ!

これで次はもっと強い冒険者さん来るかなあ!



あら、やっぱり素敵な姿ね♡



やったねおねえちゃん!

またお友達が増えたよ!



まあ素敵♡

これからも...
どんどんお友達を増やしていきましょうね♡

私たちと...
『あのお方』のために...



こうして孤児院の魔物討伐依頼を受注した多くの冒険者の行方が不明となった!

やがて、一人のウィッチにより触手の魔物は討伐され

魔物へ変貌した彼女達も無事元の姿に戻る事になるが!

それはまた、もう少し後の話



あとがき

本作品をご購入いただき、誠にありがとうございます。

私自身の同人作品としては3作目となりますが、短編を繋ぎ合わせた前作までとは異なり、初の長編漫画となりました。

話の構成や演出など、至らぬ点多かったかと思いますが、ここまでご愛読いただきまして感謝申し上げます。

漫画を描くという事がだんだん身体に沁みついて来ており、最近はとにかく線を引くのが楽しい！という感じになってきました。
すでに次回作の制作にも取り掛かっていますので、また近々お会いできると思います。

それではまた！

わびもち/おもちのもち屋
X(twitter)⇒ @wabi18_illustr